

eco キャンプ～やまぐち SDGs 探検隊～

令和4年10月15日(土)～16日(日)

【目的】

体験型の環境学習を通して、自然・生命と人々との関わりについて理解するとともに、自然・生命と人々の暮らしの持続可能なくみを考え、環境の保全に寄与しようとする温かい心の醸成を図る。

【参加者】小学4年生～6年生 21名

【プログラムの内容】

1日目

10:45 はじめの会
11:00 自然 × ゲーム
13:00 SDGs × 野外炊飯

2日目

9:00 環境保全 (eco) × 体験活動
13:00 キャンプ × ふりかえり
14:00 おわりの会

自然 × ゲーム



初対面の緊張をほぐすために、自然に関するゲームを行った。はじめは生き物に関するクイズに答え、少し緊張ほぐれてきたところで外に出て、自然の中で人工物を探すゲームを行った。ゲームを楽しみながら緊張をほぐすとともに、自然環境に意識を向け始める様子が見られた。

環境保全 (eco) × 体験活動



いきいきエコネットワーク山口の方を講師にお招きし、CO₂の排出やフードロスに配慮した環境に優しい買い物の仕方について疑似体験を通して学んだ。その後、前日の野外炊飯で出た生ゴミを使ってダンボールコンポストづくりに取り組み、持続可能なくみについて体験を通して学んだ。

SDGs × 野外炊飯



SDGs17の目標についてカードゲームを通して学んだ後に、環境に優しい野外炊飯をするために、自分たちにできることについて意見を出し合った。自分たちで考えたアイデアを意識しながら、実際に仲間と協力して野外炊飯を行った。学校や学年の枠を越えて仲を深めることができた。

キャンプ × ふりかえり



2日間のキャンプをふりかえり、楽しかったことや学んだこと、気づいたことについてグループで話合った。その後、「環境に優しく生活するために、これから自分は何をするか」SDGs My Action カードに行動目標を書き、全体で発表した。今後の生活や未来について考える姿が見られた。



【参加者の声】

- ・「SDGsについて、前よりも興味がわきました。これからは気にかけていきたいです。」
- ・「SDGsについていろいろわかって、これからはあまり生ごみを出したくないし、地球温暖化をなくしたいと思いました。」
- ・「野外炊飯が楽しかったです。これからは水を大切にしたり、フードロスを減らしたりしたいです。」

【成果】

参加者アンケートによる「キャンプ全体の満足度」では全員が最上評価の「4.満足」を選んだことから、満足度の高いキャンプを実施することができた。参加者の声にも、SDGsについて学んだことや、これからの行動目標についての記載が多くあり、環境保全への意識の向上が図れたと考える。また、応募が100名を超えた、需要の高いキャンプの企画を提供することができた。

【課題】

SDGsについて体験したり学んだりしたことを、いかに自分事として捉えるかについては、小学4年生と6年生では知識や発達の差が大きく、熟慮が必要である。また、野外炊飯では当初の予定より時間を押してしまうこともあり、より参加者の状況に合わせたプログラム構成や運営体制の見直しが必要である。